

電話記録書

1. 日時 平成31年1月29日(火) 8:49~8:54
2. 受信者 処遇部門 処遇1班 入国警備官A (HC570)
3. 発信者 総務課 秋永
4. 件名 トルコ人 [REDACTED] DENIZが不服申出(31-4)で主張する
隔離時の状況について

当方) 標記について、6点あるところ、順に確認したい。

居室(3B202)に入室するときハンディーカメラがなく、3分から5分後にカメラが来たと主張しているが、事実か。

先方) いや、居室入室時にカメラを持つ職員は私の後ろにいたので、当然入室時から撮影しているという認識だった。カメラ担当の若い職員の名前は思い出せない。

ただ、暗いこともあり、特に最初の方は映像ではよく見えなかったのではないか。

当方) 居室入室時に手袋をつけていなかったことは事実か。

先方) 事実である。それは、最初は説得していたためであり制圧するつもりはなかったため必要なかった。しかし、急遽で居室内で制圧が必要になったが、[REDACTED] DENIZ(以下「デニス」という)は上半身裸で素手だと滑るので、途中で両手に手袋をはめた。その後、デニスに識別表を外されたため、それをつけるために一時的に手袋を外したことはあったが、最終的には両手に手袋をしている。途中いつ外していつつけたかは覚えていない。

当方) 3寮処遇室において、親指で首の顎下部分を強く押したのは、制圧時の何か決められた方法なのか。

先方) 制圧の方法として、首の顎の境目の付け目の部分に2箇所痛点があり、そこを押すとかなり痛いので、今回のように話を全く聞こうとしない場合などに使用する。ただ、かなり痛いので、長時間押すことはしない。

当方) 制圧時に別の職員が後ろから鼻と口をふさいだことは事実か。

先方) 居室での制圧時に、頭部保護のため別の職員が担当したが、その際に、制圧時における混乱もあり一瞬その職員が鼻と口をふさいだ形になったため、直ぐにやめさせたのは事実である。3寮処遇室でそのような形になったかは覚えていない。

当方) デニスに後ろで手錠をかけた状態で関節を決めるように両腕を挙げながら「ごめんなさい」と言ったのは事実か。

先方) 私はそのようなことは言っていない。デニスが「ごめんなさい」と言ったのではないか。締め上げたのは確かだが、その際は「静かにしろ」とは言っている。

また、こちらから言うのであれば「ごめんなさいと言え」だったらまだわかる。

当方) 保護室におけるデニスとの会話で、最初の居室入室時からカメラがなかったことを認めていたと言っているが事実か。

先方) それは、デニスが言葉尻を捉えて言っていることである。デニスが私に対し「見えないところでやりやがって」と言ったことに対して、私がデニスに「見えないところで金玉にぎっただろう」と言ったことを指しているのだろうが、最初に述べたとおり私はカメラについては最初から撮影していたという認識であった。

当方) 了。

(以上)